

世界遺産の礎を築いた高島商人

「小野権右衛門勝礼と橋野鉄鉦山・高炉跡」

近代製鉄の工程を現代に伝える
「明治日本の産業革命遺産」

今年7月に開かれたユネスコ世界遺産委員会において、「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録されました。

長崎県の端島（通称軍艦島）や三菱長崎造船所、八幡製鐵所などとともに、岩手県の「橋野鉄鉦山・高炉跡」もその構成要素の1つとして選定されています。

橋野鉄鉦山の経営者は大溝出身の高島商人 小野権右衛門勝礼であり、安政4年（1858年）、盛岡藩の大島高任の指導によって築かれた橋野高炉（現存する日本最古の洋式高炉跡）と併せ、採掘から製鉄に至る近代製鉄の工程が把握できる遺産として評価されています。

すぐれた商才と先見
日本の近代化の礎を築いた高島商人

その小野権右衛門勝礼は、高島の「小野組」を起源としています。初代小野総本家・小野新四郎則秀は大溝十四軒町に居をかまえて商業を営みました。

当初は「糶屋」という屋号を名乗っていましたが、のちに「大溝井筒屋」と称するようになります。則秀の二男にあたる村井権兵衛主元は寛文2年（1662年）に盛岡に進出し、「近江屋」を営む村井新七の養子となって商業に励み、10年後には造酒業と質業を扱う「志和近江屋」を創始し、大成功をおさめました。

小野善五郎《総本家2代目》の二男にあたる村井権兵衛唯貞（二初代小野権右衛門）は、叔父の主元のもとに身を寄せて商道を学び、主元の養子になって志和近江

屋を継いだ後、「郡山井筒屋」（造酒屋）を立ち上げ、のちには「京都鍵屋」（質業）を開業しました。

小野権右衛門家の7代目である勝礼は、明治元年（1868年）、橋野鉄鉦山に伴う銭座（貨幣の鑄造所）を開設しました。当時は3基の高炉が稼働し、人員約1,000人・牛150頭・馬50頭の資本をもち、年間約30万貫（＝1125トン）もの製鉄量を誇るなど、国内最大規模のものでした。

高島を出身地とし、すぐれた商才と行動力、先見の明をもって盛岡をはじめとする各地に進出し、ネットワークを駆使して全国展開の商売をおこなった彼ら「高島商人」は、日本の近代化の礎を築いた、私たちの偉大な先人でもあります。

参考文献：駒井正一著『高島商人―隠れたる近江商人の謎―』（昭和62年発行）、「近江商人の鉦山経営―知られざる鉦山経営の謎―」（平成19年発行）

【写真・小野組総本家屋敷】
小野組総本家屋敷が存在していた頃の様子。老朽化のため建物自体は現存せず、今は跡地（大溝十四軒町）に案内板が立っています。



閩文化財課 ☎(32) 4467

編集感

ある早朝、百舌鳥のさえずりを聞きました。朝夕めっきりと肌寒くなって、深まっていく秋の気配を感じます。田んぼにはコンバインが走り、マキノピックランドでは栗園がオープンしました。各地から実の便りが届けられ、私たちの食欲を満たしてくれる「おいしい」季節の到来です。私は、秋と言えば「秋刀魚」。近年、漁獲量が減少し、少々心配しますが、脂の乗った「焼秋刀魚」とビールは、私に至福の時を与えてくれます。海の中でも、これからが食欲の秋。冬に備えて魚たちが食欲を競います。釣り好きには堪らない季節でもあります。大海原の中で、ひねもす釣糸を垂れて秋を堪能したいなあ。(Y)

広報たかしま

平成27年

10

月号

No.189

発行▼高島市

編集▼政策部秘書広報課

〒169-0291 滋賀県高島市新旭町北畑のの番地

☎0740(25)8000(代)

http://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp

